タンタル・ニオブ事業

当社グループのTANIOBIS GmbH（在ドイツ、以下「TANIOBIS」）は、世界各地に製造拠点と販売拠点を有する世界有数のタンタルとニオブの材料メーカーです。当社は、TANIOBISを中心にコンデンサや半導体材料用の金属粉、SAWデバイスや光学レンズ用の酸化物、半導体用の塩化物、高機能粉末材料等の安定供給を通じ、IoT・AI社会の発展に貢献しています。

ＪＸ金属（株）
常務執行役員 タンタル・ニオブ事業部長
（兼）タンタル・ニオブ事業部管理部長 技術本部審議役
飯田 一彦

重点戦略

- 既存事業における原料の安定調達等のサプライチェーンの強化・生産性向上・品質改善に加え、顧客密着型のビジネスモデルの強化
- 事業基盤拡大に向けた新規事業のアイテム創成および事業化の推進

2021年度の振り返り

主要な既存事業であるコンデンサ用高純度タンタル粉末および半導体用スパッタリングターゲット用高純度タンタル粉末の2021年度の製品販売は、IoT・AI社会の進展や巣ごもり需要の増大に伴い、底固く推移しました。

TANIOBISでは今後の製品需要の着実な伸びに対応するべく、タイの生産拠点において、高純度タンタル粉末製造設備への増強投資を行い、生産能力を大幅に引き上げることとしました。また、需給や価格の変動、リスクに強い原料調達ポートフォリオの実現に向けた取り組みや、顧客の技術ニーズに迅速かつ的確に対応すべく、営業・研究開発・製造が一体となり、顧客密着型のビジネスを展開する「Customer First Project」を推進することにより、世界シェア拡大を目指しました。新規事業開発においては、事業基盤拡大を図るべく、グループ各社等との綿密な連携による製品開発やシナジー実現に向けた活動を推進しており、上市に向けて着実に成果を上げつつあります。

2022年度の見通し

引き続きIoT・AI社会の実現に向けた需要の拡大が期待されることから、主力製品であるコンデンサ、半導体用スパッタリングターゲット用の高純度タンタル粉末の需要も堅調に推移すると考えています。こうした状況の中、営業と技術が一体となった顧客目線の営業活動を推進し、一層のシェア拡大を図るとともに、各拠点の製品構成の最適化やコストダウン、安定した原料調達に取り組むことで、さらなる競争力強化を進めていきます。

また、タンタル・ニオブの精錬加工を行う東京電解（株）を2022年4月に完全子会社化し、垂直統合的なサプライチェーンを強化するとともに、TANIOBISを含む当社グループ各社との連携によるニオブを中心としたレアメタル領域におけるシナジー実現に向けた活動を推進していきます。

TOPICS

高純度タンタル粉末の生産能力増強に向けた設備投資

高純度タンタル粉末の堅調な需要に対応するため、TANIOBISのタイ国内生産拠点で同粉末の製造設備について増強投資を行い、生産能力を大幅に引き上げることとしました。また、分析棟を新設することで品質管理体制の強化を行うとともに、開発・試作に関する設備を新設し、顧客ニーズに迅速に応えるための開発体制を強化します。本設備は、2025年を目途に順次稼働を開始する予定です。今後も高純度タンタル粉末を安定的に供給し、市場の期待に応えていきます。

TANIOBISタイ工場

チタン事業

チタンは、軽量・高強度・高耐食という特性を持つ金属であり、航空機や海水淡水化プラント、発電プラントなど幅広い分野で利用されています。当社グループの東邦チタニウム（株）では、チタン製錬や、その関連材料・技術を用いた触媒（プロピレン重合用）、化学品（積層セラミックコンデンサの内部電極・誘電体材料等）の製造などを行っています。

東邦チタニウム（株）
代表取締役社長 社長執行役員
山尾 康二

重点戦略

- 成長分野への重点投資による収益基盤の強化
- サウジアラビア合弁会社（ATTM）の早期収益化
- 新規事業の創出・推進

2021年度の振り返り

チタン事業については、コロナ禍で大幅に落ち込んだ航空機向け需要が回復したほか、一般工業向け需要も回復の兆しが見られ、堅調に推移した半導体用途と合わせ、販売は前年度に比べ大幅に増加しました。一方、収益面では原料鉱石、副資材、輸送コストの高騰によるコスト上昇が著しく、マージンを大きく圧迫する状況が続きました。触媒事業の販売は、主要製品であるプロピレン重合用触媒の需要は堅調であり、前年度を上回る水準となりました。化学品事業の販売は、主要製品であるニッケル粉の主な用途である積層セラミックコンデンサ（MLCC : Multilayer Ceramic Capacitor）が、コロナ禍影響による需要減退から回復したことに加え、5G通信や自動車関連の需要増等により前年度を大幅に上回る水準で推移しました。

2022年度の見通し

チタン事業は、引き続き航空機向け需要の回復継続を背景とした需要増にロシアのウクライナ侵攻によるサプライチェーンへの影響に伴う代替需要が加わっており、一般産業用途、半導体用途向け高純度チタンの需要も引き続き堅調に推移する見通しです。国内拠点のスポンジチタン設備稼働率は既にほぼフル生産となっていることから、関係会社であるサウジアラビアのスポンジチタン製造合弁会社の生産量引き上げにより、需要の増加に対処していきます。触媒事業については、ポリプロピレン需要は好調に推移するものと想定しており、2022年11月からは新工場の稼働により、販売量は増加する見込みです。化学品事業は、足元のMLCC需要が半導体不足や流通在庫の積み上がりにより、一時的に調整局面となっていますが、徐々に解消し成長軌道に回帰するものと想定しています。

TOPICS

ニッケル粉新工場（第４工場）建設による生産能力増強

ニッケル粉は、積層セラミックコンデンサ（MLCC）の内部電極材料として使用されています。電子機器の高機能化、IoT、自動車電装化や5Gの実用化等によるMLCC の需要拡大に伴い、ニッケル粉の需要も増加しています。東邦チタニウム（株）においては、需要拡大が期待される小型・大容量 MLCC に対応できるニッケル粉の供給体制を強化するため、若松工場に新工場（第４工場）を建設しました。今後も市場の伸びを上回る成長を目指します。

若松工場（福岡県）のニッケル粉新工場